

第124回日商簿記3級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	預	金	受	取	手	形	売	掛	金
有	価	証	券	他	店	商	品	券	未	収	入	金
仮	払	金	貸	付	金	手	形	貸	付	金	支	払
買	掛	金	商	品	券	未	払	金	預	り	金	
前	受	金	仮	受	金	借	入	金	手	形	借	入
資	本	金	引	出	金	売		上	有	価	証	券
仕		入	給		料	旅	費	交	通	費	有	価
											証	券
											売	却
											損	

1. 商品 ¥ 170,000 を売り渡し、代金のうち ¥ 100,000 については当店と連盟している他店の商品券で受け取り、残額は当店発行の商品券で受け取った。
2. 商品 ¥ 136,000 を仕入れ、代金のうち ¥ 80,000 については手許にある得意先振出しの約束手形を裏書譲渡し、残額は小切手を振り出して支払った。
3. 商品 ¥ 80,000 の注文を受け、手付金として現金 ¥ 20,000 を受け取った。
4. 従業員が出張から戻り、旅費の残額として ¥ 34,000 を現金で受け取った。なお、出張にあたって、従業員には旅費の概算額 ¥ 154,000 を手渡していた。
5. 他社が発行する株式 1,000 株を 1 株あたり ¥ 90 で買い入れ、代金は証券会社に対する売買手数料 ¥ 1,000 とともに小切手を振り出して支払った。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	他店商品券	100,000	売上	170,000
	商品券	70,000		
2	仕入	136,000	受取手形	80,000
			当座預金	56,000
3	現金	20,000	前受金	20,000
4	現金	34,000	仮払金	154,000
	旅費交通費	120,000		
5	有価証券	91,000	当座預金	91,000

・解説

1. 売上取引・商品券に関する問題です。

まず、問題文の「代金のうち ￥100,000 については当店と連盟している他店の商品券で受け取り」から、新たに商品券の額面金額を受け取る権利が発生したことが分かるので、他店商品券勘定を 100,000 円増額します。

★解答①（他店発行の商品券を受け取ったときの仕訳）

（借）他店商品券 100,000 / （貸）売上 100,000

また、問題文の「残額は当店発行の商品券で受け取った」から、以前に発行した商品券の額面金額を支払う義務が消滅したことが分かるので、商品券勘定を 70,000 円（＝170,000 円－100,000 円）減額します。

★解答②（当店発行の商品券を受け取ったときの仕訳）

（借）商品券 70,000 / （貸）売上 70,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

商品券に関する問題は、第 103 回の間 4 や第 104 回の間 3、第 114 回の間 1、第 118 回の間 5、第 120 回の間 2、第 129 回の間 3、第 145 回の間 2 でも出題されていますが、本問（商品券の授受）と第 114 回の問題（商品券の精算）が解ければ、簿記 3 級の商品券対策はじゅうぶんです。

2. 仕入取引に関する問題です。

この問題は【裏書手形に関する仕訳】【小切手振出しに関する仕訳】に分けて考えると分かりやすいです。

【裏書手形に関する仕訳】

問題文に「代金のうち ￥80,000 については手許にある得意先振出しの約束手形を裏書譲渡し」とありますから、当店が所有している他店振出の受取手形を仕入先に譲渡する仕訳をきります。

★解答①

（借）仕入 80,000 / （貸）受取手形 80,000

【小切手振出しに関する仕訳】

残額の 56,000 円については、通常の小切手振出しによる仕入取引ですから特に問題は無いと思います。

★解答②

(借) 仕入 20,000 / (貸) 買掛金 20,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

本問は簡単な問題ですので、完璧に出来るようにしておいてください。ちなみに、問題自体は第 120 回の問 1 とほとんど同じ形式です。

3. 前受金に関する問題です。

前受金は、商品売買に先立ってお金を受け取った場合に使用する勘定科目です。本問は、問題文に「手付金として現金 ¥ 20,000 を受け取った」とあるので、受け取った 20,000 円を前受金勘定で処理します。

ここで、問題文の「商品 ¥ 80,000 の注文を受け」から、売上を計上してしまった方がいるかもしれませんが、商品の売上は【①第三者に対して財貨または役務の提供が完了】し、【②その対価として現金または現金同等物を受け取ったとき】に計上します。

本問は、②の条件は満たしていますが、まだ①の条件を満たしていないので、売上を計上することは出来ません。間違えてしまった方は、もう一度テキストに戻って復習してください。

■仮受金と前受金の違いについて

- ・仮受金…内容が不明のお金を受け取った場合に仮に計上する勘定
- ・前受金…商品売買に先立ってお金を受け取った場合に計上する勘定

仮受金と前受金についてはきちんと区別できるようにしておいてください。なお、商品売買に先立って受け取るお金には「内金」と「手付金」の 2 種類がありますが、受験簿記では両者を区別して押さえる必要はありません。どちらも受け取ったら前受金勘定で処理します。

■支払った側の仕訳について

本問は、お金を受け取った側の仕訳が問われていますが、内金を支払った側の仕訳も一緒に押さえておきましょう。商品売買に先立ってお金を支払った場合、支払った分を前払金勘定で処理します。

☆参考・内金を支払った側の仕訳

(借) 前払金 20,000 / (貸) 現金 20,000

本問のように、前受金の処理をズバリ聞いてくるような問題は第 108 回の問 2 でも出題されていますが、どちらも簡単なボーナス問題です。

4. 仮払金に関する問題です。

解答にあたっては、まず仮払時の仕訳をイメージしましょう。

☆参考・仮払時の仕訳

(借) 仮払金 154,000 / (貸) 現金など 154,000

上記の仕訳を踏まえたうえで、仮払金 154,000 円のうち 34,000 円は**現金**で戻ってきたので現金で処理し、残りの 120,000 円 (=154,000 円 - 34,000 円) を**旅費交通費**で処理します。

★解答仕訳

(借) 現金 34,000 / (貸) 仮払金 154,000

(借) 旅費交通費 120,000

■仮に旅費が 180,000 円だった場合は？

旅費の実際発生額が仮払時の概算額よりも多かった場合、従業員が不足分を立て替えた形になります。

よって、旅費が 180,000 円だった場合は、不足分 26,000 円 (=180,000 円 - 154,000 円) を従業員に支払って精算します。

☆参考・実際発生額 > 概算額の場合の仕訳

(借) 旅費交通費 180,000 / (貸) 仮払金 154,000

(貸) 現金 26,000

仮払金に関する問題は、第 100 回の問 4や第 110 回の問 3、第 115 回の問 5、第 119 回の問 4、第 129 回の問 4、第 146 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 有価証券の購入に関する問題です。

有価証券を購入した場合は、取得原価に付随費用（取得に伴い発生した費用）を含めて資産計上します。

取得原価 = 購入代価 + 付随費用 = @90 円 × 1,000 株 + 1,000 円 = 91,000 円

有価証券の購入に関する問題は、第 103 回の問 5や第 108 回の問 4、第 119 回の問 2、第 121 回の問 5、第 133 回の問 1、第 138 回の問 1、第 143 回の問 1、第 148 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。